

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○正しく文章を読み、必要な情報を文の中から見付けられるようになってきた。</p> <p>○漢字に関心をもち、正しく覚えようと練習や間違い直しに取り組んでいる。</p> <p>○絵本から読み物へと読書の幅が広がってきた。</p> <p>○10のまとまりで数を捉えられるようになり、2桁までの簡単なたし算やひき算ができるようになった。</p> <p>▽文節を意識して、文章を読んだり書いたりすることがまだ不十分である。</p> <p>▽助詞や拗音、促音を正しく用いることが、まだ不十分である。</p> <p>▽時計を正しく読むことに課題が見られる。</p>	<p>●文章構成を理解し、中心となる文に着目して、文章全体で何を説明しているのかが分かるよう、引き続き指導していく。</p> <p>●文の中で言葉を正しく用いて、活用できるようにする。</p> <p>●必要に応じて、物語や説明文など種類を選んで読書ができるようにする。</p> <p>●文章問題の中の数字だけを見て式を立てるのではなく、図を描いて式を立てられるようにする。</p> <p>▼音読を中心に、文節を意識して文章を読めるようにする。</p> <p>▼短作文や経験したことを文章化するような取り組みやすい作文を繰り返すことで、正しい言葉の使い方が身に付くようにする。</p> <p>▼日常的に時計を読んで行動するように意識させ、定着を図る。</p> <p>▼デジタルドリル等で繰り返し問題に取り組み、学習内容の習熟を図る。</p>
<p>【第2学年】</p> <p>○国語の授業や家庭学習で音読に取り組むことで、平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をよどみなく読めるようになってきた。</p> <p>○生活文、紹介文や説明文、感想文等を順序立てて書く活動に取り組むことで、自分の体験や考え、説明を短い文章で表現する力が付いてきた。</p> <p>○デジタルドリルや授業での計算練習を積み重ね、2桁や3桁のたし算、ひき算の筆算、かけ算など2年で必要な計算能力が身に付いてきた。</p> <p>▽デジタルドリルや漢字プリントを活用して既習漢字の定着を図ってきたが、テストでは書くことができて、文章の中で適切に使用することがまだ不十分である。</p> <p>▽算数の文章題を図や式に表す学習に取り組む、問われていることや答え方を確認する習慣付けを行ったが、理解には個人差が見られた。</p>	<p>●引き続き国語の授業や家庭学習で音読に取り組む、文章を読む力を育てていく。</p> <p>●生活文、紹介文や説明文等を順序立てて書く活動を引き続き行い、書く力をさらに伸ばしていく。</p> <p>●デジタルドリルや計算プリントなどで繰り返し問題に取り組む、計算力の向上を図る。</p> <p>▼文章を書く際に、既習の漢字を活用するよう継続して指導を行う。</p> <p>▼文章題を解く際に、文章の内容を順序立てて整理し、問われていることや答え方を確認する習慣付けを継続して行う。</p>

<p>【第3学年】</p> <p>○読解力と、自分の思いを文章にする力が更に向上した。</p> <p>○漢字テストで繰り返し学習を積み重ねてきたことで、語彙力が付いてきた。</p> <p>○かけ算やたし算、ひき算の筆算が円滑にできるようになった。</p> <p>▽コンパスを用いた学習において、円の作図などにまだ課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●抽象的な文章や説明文などでも文章をまとめたり、構成を意識して書いたりする力を身に付けられるよう、引き続き指導する。 ●新出漢字のみではなく、1～3年までの漢字の復習も含めて、引き続き学習を継続していく。 ●筆算の計算を定着させるため、引き続き学習を継続していく。 ▼図形の作図などの学習課題に引き続き取り組み、繰り返し練習して定着を図る。 ▼デジタルドリル等で繰り返し問題に取り組み、学習内容の習熟を図る。
<p>【第4学年】</p> <p>○ホワイトボードを活用して話し合い活動を行う手法を取り入れたことで、相手の話を最後まで聞けるようになり、対話が活発になった。</p> <p>○説明文教材で、大事な言葉や中心となる語を確認し、要約に取り組んだことで、読み取る力が高まった。</p> <p>○漢字の繰り返し学習が定着し、意欲的に取り組むようになった。</p> <p>○習熟度別算数のクラスで個に応じた支援を行い、測定や作図の力が向上した。</p> <p>○算数の学力に個人差が見られたが、休み時間や放課後の時間を使い、児童同士で教え合いをしたり、補習をしたりしたことで理解が深まった。</p> <p>▽国語、算数ともに、思考力を問われる問題に最後まで向き合えなかったり、あきらめたりする消極的な姿勢が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き対話する時間を確保し、考えの可視化を取り入れた学習を計画する。 ●文章の中で大事な言葉や中心となる語を確認し、要約する活動を引き続き行い、さらなる読解力の向上を目指す。 ●引き続きデジタルドリルや紙のドリルを活用して、漢字の定着を図る。 ●引き続ききめ細やかな支援を行い、測定や作図の力を育てる。 ●休み時間や放課後の時間の活用とともに、授業の中でも教え合う場面を意図的に設定する。 ▼グループの構成メンバーを考慮した協働学習を適宜取り入れて、粘り強く前向きに学習に取り組めるようにしていく。
<p>【第5学年】</p> <p>○国語の学習において、叙述をもとに自分の考えを表現できるようになってきた。</p> <p>○算数の学習において、自分の考えを筋道を立てて説明する力が育ち、「なぜそう考えたのか」を言語化できる児童が増えた。</p> <p>▽振り返りが感想にとどまる児童も多く、学習前に立てた見通しと実際の学びを関連付けた省察や、自他の考えに対する個別の振り返りがまだ不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●読み取りにおける自分の考えの根拠を明確にする活動を繰り返し行い、叙述をもとに考えを伝える力を育てる。 ●解答や立式に至るまでの過程を言葉で説明させる活動を取り入れ、筋道を立てて説明する力の向上を図る。 ▼学習前の見通しを板書やノートに残し、振り返りの際に読み返して活用する。さらに、自分の考えと友達の考えを並べて比較する活動を取り入れ、対話を通して省察が深まるようにする。

【第6学年】

○新宿区学力定着度調査では、国語、算数ともにほぼ全ての観点、領域で区の平均を上回った。

○文章を書く活動を苦手としていた児童も少しずつ自信を付け、どの児童も卒業文集を自力で書き上げることができた。

▽新宿区学力定着度調査の結果、国語では、説明的な文章の読みで全国の平均を 5.3 ポイント、区の平均を 13.8 ポイント下回った。

▽新宿区学力定着度調査の結果、算数の「対称な図形」で全国の平均を 12.2 ポイント、区の平均を 16.6 ポイント下回った。

●年間を通して、自分の考えや振り返りを短い文で書き表す場面を多く設定した。児童が書いた文章にコメントや花丸などでフィードバックをすることで、書くことが苦手だった児童も少しずつ自信を付けていく様子が見られた。

▼読むことが苦手な児童は、特に説明的な文章に抵抗を示している。日頃の読書が物語または図鑑や学習漫画などに偏っているため、説明的な文章に触れさせ、読書の幅を広げられるような活動を取り入れる。

▼算数の「対称な図形」の中で、特に点対称については授業で復習する際も正答率が低かった。学年の初めに学習した内容を繰り返し復習し、定着を図るようにする。